

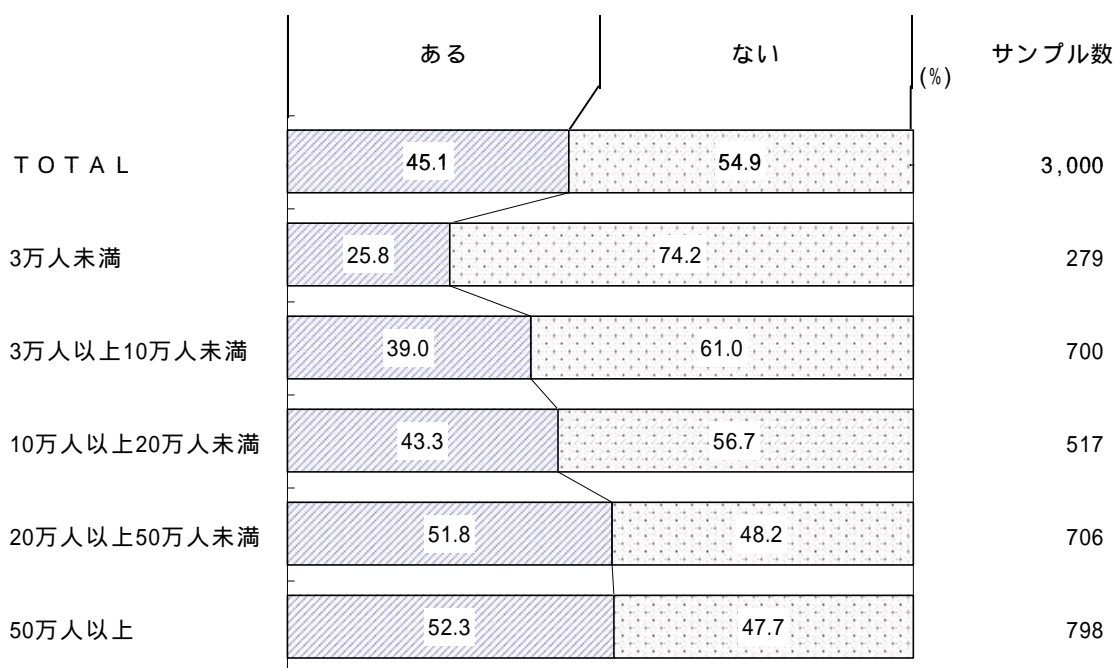
自転車の幼児同乗に関するアンケート調査結果

1.調査方法等

- 調査対象者 : 6歳未満の子と同居している保護者
 調査期間 : 平成20年1月22日～29日
 調査方法 : インターネット使用による定量調査
 調査地域 : 全国
 対象者数 : 3,000名
 サンプル割付 : 全国を北海道・東北、関東、中部、近畿、中国・四国、九州・沖縄の6地域と市区町村（区は東京都特別区）の人口規模5区分により層化し、3,000サンプルを人口比により全国に配分した

2.調査結果の概要

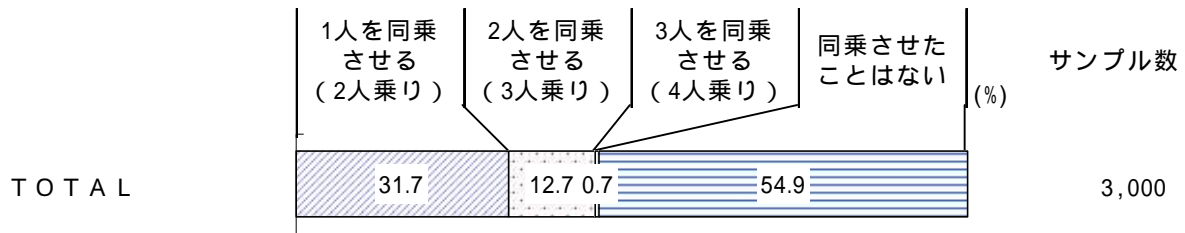
昨年1年間における自転車への子ども同乗経験の有無



- ・同乗経験有りは、45.1%。
- ・人口規模の大きいところほど同乗経験は多い傾向がみられる。
- ・同乗時に利用する自転車の種類は、「一般の自転車」が65.7%、「子ども乗せ専用自転車」が26.2%。
- ・子どもを同乗させる理由は、「幼稚園、保育所への送迎や買い物などの際に便利だから」80.2%が最大の理由となっている。

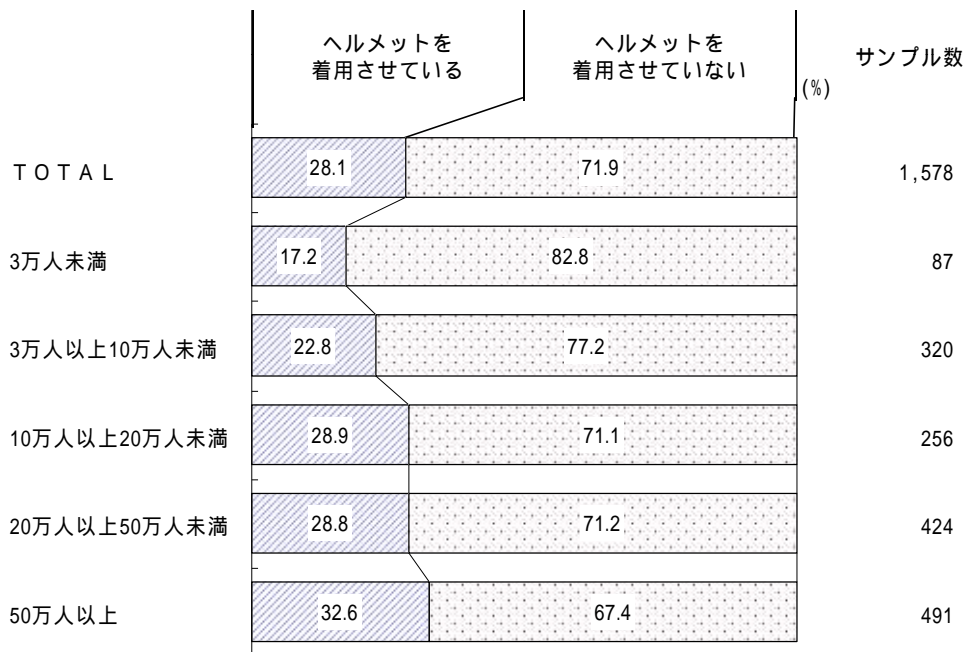
子どもを同乗させる人数

最も多く同乗させた時の人数



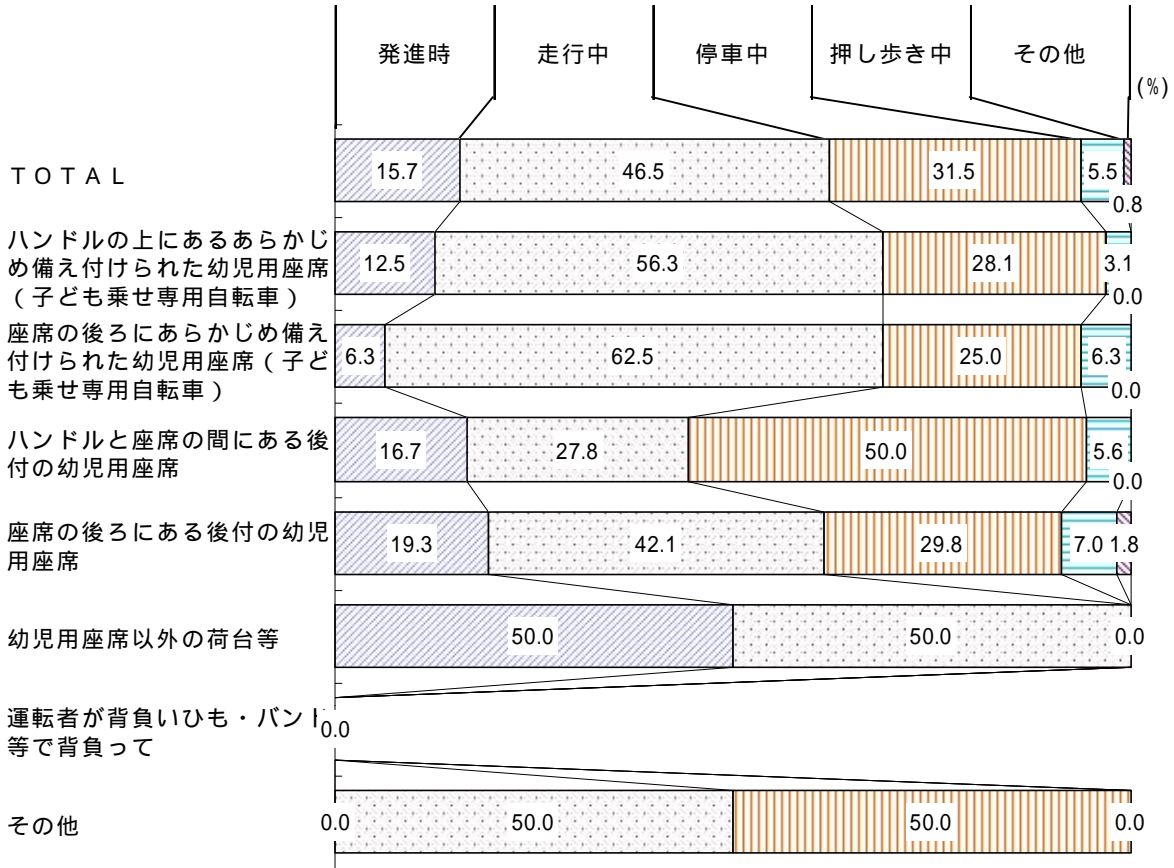
- ・最も多く子どもを同乗させた時の人数は、「1人を同乗させる (2人乗り)」が31.7%、「2人を同乗させる (3人乗り)」が12.7%となっている。
- ・子どもを同乗させる頻度は、「ほぼ毎日」が13.7%、「週に4~5回」が12.6%、「週に2~3回」が17.2%と、「週に2回以上」の合計が43.5%となっている。
- ・同乗形態は、「座席の後ろにある後付の幼児用座席」が43.5%、次いで「ハンドルの上にあるあらかじめ備え付けられた幼児用座席 (子ども乗せ専用自転車)」が19.8%となっている。

自転車同乗時の子どものヘルメット着用状況



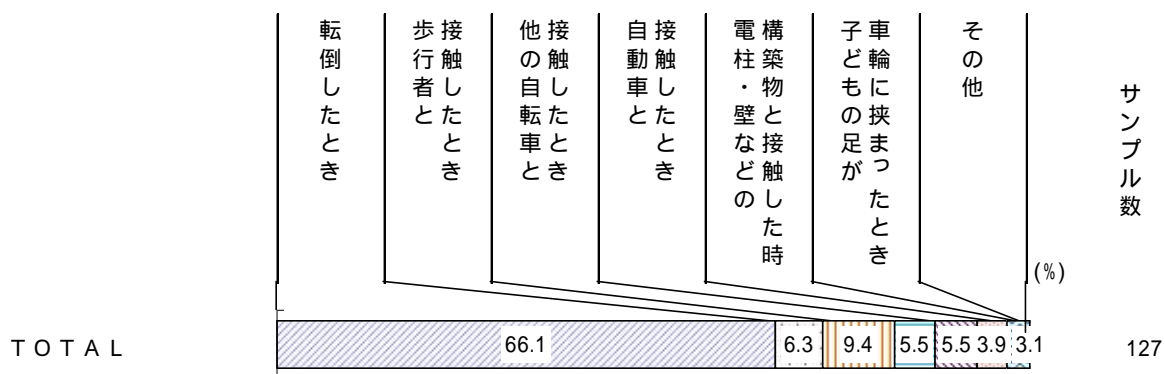
- ・同乗時の子どものヘルメットの着用率は28.8%。
- ・ヘルメットを着用させるようになったきっかけは、「自分で考えて必要だと思ったから」22.0%、「事故が多発しているとの報道を見たり、聞いたりしたから」10.2%などが上位の理由。
- ・ヘルメットを着用させていない理由は、「短い距離しか乗らないから」25.8%、「面倒だから」23.4%、「子供がかぶりたがらないから」17.8%などが上位の理由。

自転車同乗時の子どもの同乗形態とケガをした時の事故の場面



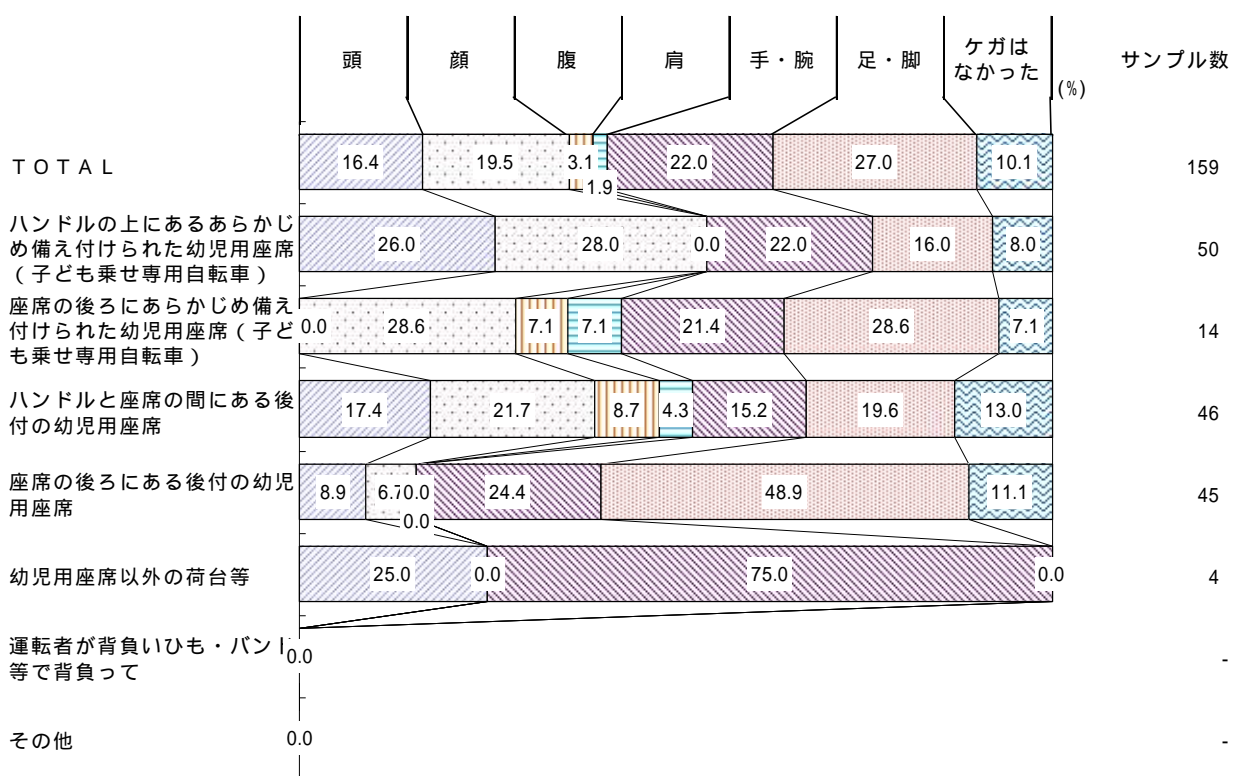
- ・同乗時の子どものケガ経験有りは、9.4%。
- ・子どものケガ経験有りの者にケガをした時の事故の場面を尋ねると、「走行中」が46.5%で多く、「停車中」31.5%、「発進時」15.7%となっている。
- ・ケガをした時の事故の場面を自転車同乗時の子供の同乗形態別にみると、「走行中」は「ハンドルの上にあるあらかじめ備え付けられた幼児用座席 (子ども乗せ専用自転車)」56.3%と「座席の後ろにあらかじめ備え付けられた幼児用座席 (子ども乗せ専用自転車)」62.5%が多く、「停車中」は「ハンドルと座席の間にある後付の幼児用座席」50.0%が多くなっている。

ケガをした時の事故の状況



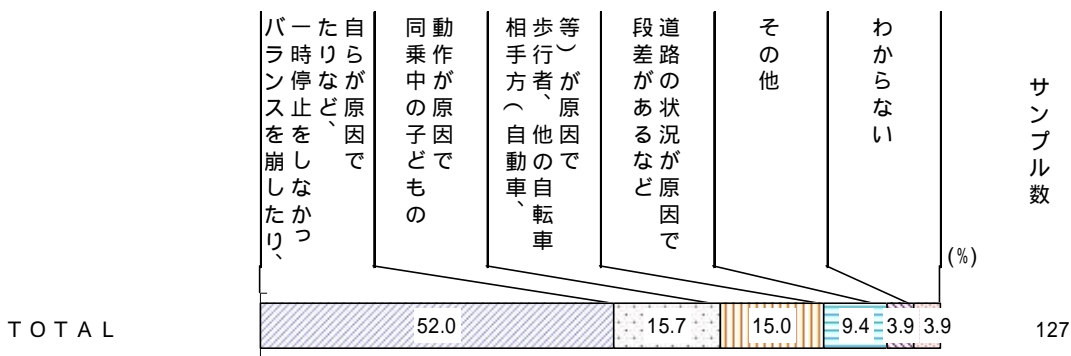
・ケガをした時の事故の状況は、「転倒したとき」が66.1%で最も多くなっている。次いで「他の自転車と接触したとき」が9.4%となっている。

自転車同乗時の子どもの同乗形態とケガの最も大きかった部位



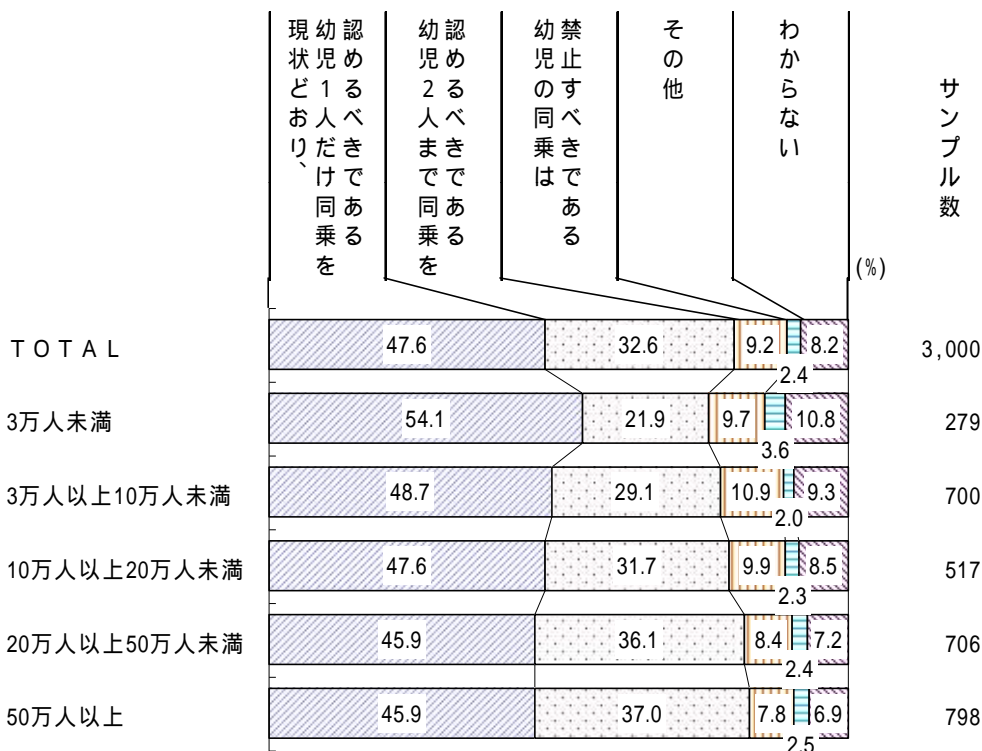
・ケガの最も大きかった部位を自転車同乗時の子供の同乗形態別みると、「ハンドルの上にあるあらかじめ備え付けられた幼児用座席 (子ども乗せ専用自転車)」と「ハンドルと座席の間にある後付の幼児用座席」では「頭」と「顔」のケガが多く、「座席の後ろにある後付の幼児用座席」では「足・脚」のケガが多くなっている。

ケガをした時の事故の原因



- ケガをした時の事故の原因は、「バランスを崩したり、一時停止をしなかったりなど、自らが原因で」52.0%が最も多く、続いて「同乗中の子どもの動作が原因で」15.7%、「相手方（自動車、歩行者、他の自転車等）が原因で」15.0%となっている。

子どもを同乗させることの是非



- 自転車に子どもを同乗させることの是非は、「現状どおり、幼児1人だけの同乗を認めるべきである」47.6%、「幼児2人まで同乗を認めるべきである」32.6%、「幼児の同乗は禁止すべきである」9.2%であり、大半の人は幼児の同乗に賛成となっている。
- 自転車に幼児2人まで同乗を認めるべき割合は、人口規模が大きいほど高い割合となっている。